シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 人間の理解		授業の種類 講義・演習		授業担当者 藤岡恵子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し介護現場における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を培う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護実践の基礎となる「人間の理解」を図り、介護における尊厳の維持と自立支援の在り方について考え、心身の状況に応じた介護の在り方について考察する。また、学習内容を深めるためにグループワークによる学生同士の討論を実施する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養できる。 2. 人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える必要性について理解できる。 3. 人間が主体的に自己の生活を営もうとすることが自立であると、捉えることができる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（本授業の内容と到達目標の説明） 2 人間の尊厳と自立 3 人間理解と尊厳の意義①（人間理解と尊厳の考え方） 4 人間理解と尊厳の意義②（「人間」の多面的理解・自己理解・他者理解） 5 尊厳と自立をめぐる人間の歴史 6 尊厳と自立にかかわる実情と課題 7 生活を通じた尊厳と自立の理解①（実情と課題） 8 生活を通じた尊厳と自立の理解②（生活をすること） 9 介護における尊厳の保持・自立支援①（権利擁護と人権尊重） 10 介護における尊厳の保持・自立支援②（介護における自立支援） 11 介護における尊厳保持の実践 12 介護における自立支援の実践 13 自立・自律した生活を支える介護 14 身体的・精神的・社会的な自立支援 15 まとめ 				
[使用テキスト・参考文献] 「新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解」 第2版 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席・授業態度、定期試験	

シラバス (授業概要)

授業のタイトル (科目名)	授業の種類	授業担当者	
人間関係論	講義・演習	松田典子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2単位)	1学年 前期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護実践において対人援助に必要な人間の関係性を理解し、形成に必要な基礎的な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間関係論は、ヒューマン・リレーションの概念に始まり、対人関係などの発達心理学や社会心理学の対象と分化し、さらに心理・医療・教育の臨床の領域で重要な概念となっている。よって、人間関係の形成をするために必要な基礎について演習を交えながら授業を展開する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>人間の関係性の形成において必要な心理学的支援の意義や機能を理解することができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間らしさのはじまり① 人類の進化 2 人間らしさのはじまり② 言語の使用 3 自分と他者の理解① 自分を形成する2つの要素 4 自分と他者の理解② 自分を理解する 5 自分と他者の理解③ 他者を理解する 6 自分と他者の理解④ 人間関係形成に必要なこと (自己覚知・自己開示) 7 自分と他者の理解⑤ 人間関係形成に必要なこと (自己覚知・自己開示) 8 自分と他者の理解⑥ 人間関係形成に必要なこと (変化の可能性：自分の変化) 9 自分と他者の理解⑦ 人間関係形成に必要なこと (変化の可能性：他者・社会の変化) 10 発達心理学からみた人間関係① 人間の段階的な発達・パーソナリティ形成 11 発達心理学からみた人間関係② 社会性の発達と人間関係 12 社会心理学からみた人間関係① 対人認知 13 社会心理学からみた人間関係② 集団とのかかわり 14 人間関係とストレス 15 まとめ 			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<p>・「最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解」 中央法規出版</p>		<p>(試験やレポートの評価基準など) 出席・授業態度・提出物 定期試験</p>	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 社会の理解		授業の種類 講義		授業担当者 藤岡恵子
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（4単位）	配当学年・時期 1年・通年	必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい]				
1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人・家族・近隣・地域社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助・共助・公助について理解する。				
2. わが国の社会保障の基本的な考え方・歴史と変遷・仕組みについて理解する。				
3. 近年の社会福祉制度に大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎知識を習得する。				
4. 介護実践に必要な観点から、個人情報保護・成年後見制度・生活保護制度などについて、基礎的知識を習得する。				
[授業全体の内容の概要]				
1. 生活と社会福祉について				
2. 社会保険制度について				
3. 介護保険制度について				
4. 障害者自立支援制度について				
5. 介護実践にかかわる諸制度について				
[授業修了時の達成課題（到達目標）]				
社会保障全般及び社会福祉の各種制度について理解し、介護の現場で役立つ人材になる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数				
1. はじめに				
私たちの生活と社会福祉		1 生活の構造		
2. "		2 家族とは		
3. "		3 地域社会と個人		
		4 人と社会、組織		
4. "		5 現代におけるライフスタイルの変化		
5. 生活の支援と福祉の体系				
6. 社会保障の仕組み		1 社会保障の基本的な考え方		
7. "		2 日本の社会保障制度の発達（その1）		
8. "		2 日本の社会保障制度の発達（その2）		
9. "		3 日本の社会保障制度の仕組み（その1）		
10. "		3 日本の社会保障制度の仕組み（その2）		

11.	〃	4 現代社会と社会保障制度（その1）
12.	〃	4 現代社会と社会保障制度（その2）
13.	介護保険制度のあり方	1 介護保険制度創設の背景と目的（その1）
14.	〃	1 介護保険制度創設の背景と目的（その2）
15.	〃	2 介護保険制度の仕組み（その1）
16.	〃	2 介護保険制度の仕組み（その2）
17.	〃	3 介護保健制度にかかわる組織とその役割（その1）
18.	〃	3 介護保険制度にかかわる組織とその役割（その2）
19.	〃	4 介護保険制度における専門職の役割
20.	〃	5 介護保険制度の動向
21.	障害者の自立支援を担う法制度のあり方	1 障害者の自立
22.	〃	2 障害者自立支援制度の仕組み
23.	〃	3 障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割
24.	〃	4 これからの障害者福祉施策の方向性
25.	介護実践にかかわる諸制度	1 人々の権利を擁護する諸制度
26.	〃	2 保健医療にかかわる諸施策
27.	〃	3 医療にかかわる法と諸施策
28.	〃	4 生活を支える諸制度のあらまし
29.	〃	5 高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度（その1）
30.	〃	6 高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度（その2）
		まとめ
授業方法：講義及び学生の発表等		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]
①新・介護福祉士養成講座2 「社会と制度の理解」中央法規出版		①筆記試験とレポート（2回）により単位認定とする
②参考文献随時紹介		②授業での発表態度や出席状況も考慮する

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 法と人権		授業の種類 講義		授業担当者 関谷 豊	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 選択		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会生活において法の作用や役割・人権について理解させると同時に、憲法と関係する法の基礎を学び、人権意識の重要性を学ばせる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉士として法律の基礎知識と人権の重要性を学びながら、立派な社会人として学生が成長できるように学ばせる。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会生活における法の作用や役割について理解させる。 2. 憲法やその他福祉に関係する法の基礎を理解させる。 3. 基本的人権や各種制度について介護福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法学概論と憲法の意義について 2. 社会の変遷と法（社会生活と法） 3. 裁判基準として 4. 法の効力と濫用について 5. 私権について 6. 国民の義務と基本的人権について 7. 憲法の基本原理について 8. 憲法について 9. 権利と義務・プライバシーについて 10. 個人を尊重する原理と新しい人権について 11. 人権の享有主体について 12. 幸福追求権について 13. 行政法と民法・介護福祉法について 14. 各種制度・関係法令・判例等について 15. まとめ・試験・レポート 					
[使用テキスト・参考文献] 参考文献適時紹介			[単位認定の方法及び基準] 出席とレポートにより単位認定する		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 音楽療法		授業の種類 演習		授業担当者 熊野 恭子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年・前期		必修・選択 選択	
[授業の目的・ねらい] 音や音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを体験し、音や音楽によるノンバーバルコミュニケーションの可能性を理解させる					
[授業全体の内容の概要] ワークショップ中心の講義					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 音や音楽によるノンバーバルコミュニケーションからみえる自分自身の発見や他者理解を深める					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽とは（テキストや臨床現場の実践報告で音楽教育との違いを知る） 2. 〃（音や音楽を体験し、その意味を考える） 3. 音や音楽の可能性（音や音楽をさまざまな感覚で体験する） 4. 〃（音や音楽にみえる『自分』を発見する） 5. 〃（音や音楽にみえる呼吸・心身リズム・テンポ・人の発達を知る） 6. 〃（音でつながるということを、楽器を通して体験する） 7. 音楽療法の具体的方法と展開（楽器によるノンバーバルコミュニケーションの方法を知る） 8. 〃（ドラム同質奏法を体験しドラムの上でのコミュニケーションの方法を知る） 9. 〃（リズム・ムーブメントやリラクゼーションを通して呼吸のバリエーションを知る） 10. 〃（音や音楽を漢字、音絵を描く） 11. 音楽技術の習得（さまざまな声の出し方、楽器の操作・リズム打ち） 12. 〃（音声アンサンブル・即興演奏・リズム打ち） 13. 実技試験（リズム打ち：Duet No.3 テキストP36） 14. 作品発表練習（グループに分かれ、楽器、素材を検討する） 15. 筆記試験（45分）・作品発表練習 16. 作品発表（発表後にそれぞれの感想・意見を交わす） 					
[使用テキスト・参考文献] テキスト：中島恵子「はらっぱde楽譜集」 （こども音楽センター、1998） 参考文献：中島恵子、山下恵子「音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー」（春秋社、2002） 貫行子「高齢者の音楽療法」（音楽之友社、1996）			[単位認定の方法及び基準] ・筆記試験 30% ・実技試験 30% ・作品発表 30% ・授業態度 10% 上記4項目を総合して評価する		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） レクリエーション・野外活動	授業の種類 講義・演習	授業担当者 丸林 奈保子・山田 靖浩	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>利用者個人の自立を目標としたレクリエーション活動の支援方法について学び、個人の意見と個人に即した多用なレクリエーションを生活の中で提供できる知識と技術を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>福祉現場に即したレクリエーション活動の能力と、実践援助能力を習得させる。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しさと元気作りの理論を理解させる 2. レクリエーション支援の理論を理解させる 3. レクリエーション支援の方法を理解し、援助実践能力を習得向上させる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 楽しさをとおした対象者の心の元気作り 2. 心の元気と地域のきずな 3. コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 4. 良好な集団作りの理論 5. 自主的・主体的に楽しむ力を育む理論 6. 信頼関係作りの方法・ホスピタリティ 7. 良好な集団作りの方法・アイスブレイキング 8. 野外活動（グループワークトレーニング・リーダー養成） 9. 野外活動（野外実習事前研修） 10. 野外活動（実習現場） 11. 野外活動（オリエンテーリング） 12. 野外活動（キャンプファイアー） 13. 野外活動（グループワークトレーニング） 14. 野外活動（ワークショップ） 15. アクティビティの実践・演習・試験 			
[使用テキスト・参考文献] 公益財団法人日本レクリエーション協会 「楽しさをとおした心の元気づくり」他		[単位認定の方法及び基準] 出席・実習態度・実技試験・レポート	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 情報処理		授業の種類 演習		授業担当者 田中満由美・板垣聡美	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30 時間（1単位）	配当学年・時期 1 年・ 後 期		必修・選択 選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>現代社会において、パソコン機器を使えることは社会人として必須である。福祉の現場において、全ての書類等の作成に関わってくる文書作成等に欠かせない知識を習得しパソコンが使えるようになる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>パソコンを使用し、実際の報告書等の作成やプレゼンテーションソフトを利用しての実践</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書作成ソフト（ワード）を利用して文書作成ができる。 ・表計算ソフト（エクセル）の操作ができる。 ・プレゼンテーションソフト（パワーポイント）の操作ができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. セキュリティと情報処理について 2. 文書作成ソフト（ワード）の知識と文書作成実習 3. 文書作成（公文書の作成方法） 4. ワードの応用（様々なツールの利用） 5. 〃 6. ワードの応用（ポスター作成） 7. 表計算ソフトの基礎 8. 表計算ソフトの利用（簡単な関数） 9. 表計算ソフトの応用（グラフの作成） 10. 表計算ソフトの応用（総合練習） 11. プレゼンテーション（パワーポイント）の基礎 12. インターネットを利用し資料作成 13. プレゼンテーションの作成 14. プレゼンテーション作品発表 15. まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 30時間でマスター 「WORD&EXCEL 216」 他			[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・提出物・筆記試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 介護の基本 I		授業の種類 講義		授業担当者 長本幸子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修		
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>介護の成り立ちを学ぶことにより、専門職による「介護」が誕生した背景を理解し、複雑化・多様化・高度化する介護ニーズを社会的な課題としてとらえることができる。そのなかで介護福祉士の役割や機能を理解し、能力や態度を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>戦前から戦後、介護保険が成立するまでの流れや成立したあとの社会的な動向を捉えながら、介護福祉士の役割や機能を理解し、専門職としての態度を養う。地域に根付いた介護とは何かを考え、実践できるよう知識を深める。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>介護の成り立ちから今日の複雑化・多様化・高度化する介護ニーズを身近な課題として捉えることにより、専門職としての介護福祉士とは何かを理解することができる。地域共生社会を担うものとして、どのような役割があるのかを理解することができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 1. オリエンテーション 授業の展開について 介護の成り立ち</p> <p>2. 専門職による「介護」が誕生した社会的な背景</p> <p>3. 介護の概念の変遷 量から質へ 三大介護から心身の状況に応じた介護へ</p> <p>4. 介護保険法成立から今日の社会の問題点 措置から契約へ</p> <p>5. 介護福祉の基本理念 尊厳とは何か</p> <p>6. 介護福祉の基本理念 自立と自律 基本的人権の尊重</p> <p>7. 地域包括ケアシステムと介護予防 介護福祉士の役割とは</p> <p>8. 介護福祉士に医療的ケアが求められる背景 最期を迎える人へのケア</p> <p>9. 災害時の介護 支援の方法と介護福祉士の役割</p> <p>10. 社会福祉士及び介護福祉士法 介護福祉士の義務規定</p> <p>11. 専門職に求められる役割とは</p> <p>12. 介護教育のカリキュラムの変遷</p> <p>13. 介護福祉士を支える団体</p> <p>14. 地域と共生できる介護福祉士とは</p> <p>15. 多職種協働と地域共生社会</p>					
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>最新介護福祉士養成講座 3 『介護の基本 I』（中央法規）</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>前期試験、 授業態度、出席</p>		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者	
介護の基本Ⅱ	講義	長本幸子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2単位)	1学年 前期	必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護を受けて生活する人およびその生活を理解し、その生活を支えるしくみである社会資源のフォーマルサービス、インフォーマルサービス、地域連携について理解を深める。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>生活をするとはどういうことか、介護を必要とする人の生活のしづらさを介護福祉により生活の継続へと支援していくしくみを、地域連携を交え講義し、事例を用い解説する。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得する。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（本授業の内容と到達目標の説明） 2 生活の理解① 3 生活の理解②（演習 1-1） 4 介護を必要とする人の暮らし① 5 介護を必要とする人の暮らし② 6 介護を必要とする人の暮らし③（演習 1-2） 7 「その人らしさ」の理解① 8 「その人らしさ」の理解② 9 「生活ニーズ」の理解 10 「生活のしづらさ」を考える 11 「生活のしづらさ」に対する支援、家族介護者への支援 12 生活を支える社会サービス①（フォーマルサービス）（演習 2-1） 13 生活を支える社会サービス②（インフォーマルサービス）（演習 2-2） 14 地域連携 15 まとめ 			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
<p>・「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」 中央法規出版</p> <p>・授業担当者作成資料</p>		<p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>出席・授業態、定期試験</p>	

授業のタイトル (科目名)	授業の種類	授業担当者	
介護の基本Ⅲ	講義	長本 幸子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2単位)	1学年 後期	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>多様化する介護ニーズに対応できるよう、専門職としての介護倫理とは何かを個々が考え、意見を述べるができる学習とする。ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、また多職種協働による介護が実践できるよう知識と理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>日本介護福祉士会の倫理綱領を基に、介護に携わるべき人が持つべき職業倫理とは何かを学ぶ。また、介護予防の意味を理解し、ICFの考え方が活用できるような知識を身につける。高齢者の特性を踏まえ、個々の状態に合わせた介護が実践できる知識を身に着ける。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>自立支援や尊厳の保持、ICFの視点に基づくアセスメントを理解しながら、介護に携わる人にとっての倫理観を養うことができる。介護予防とは何かを理解し、高齢者の特性や状態に合わせた介護が実践できるような考え方ができるようになる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 1. 介護に携わる人が持つべき職業倫理とは</p> <p>2. 日本介護福祉士会の倫理綱領</p> <p>3. 自立支援の考え方 ストレngthsとエンパワメント</p> <p>4. ICFの考え方 ①ICFとは</p> <p>5. ICFの考え方 ②対象者のstrengthsを考える</p> <p>6. ICFの考え方 ③事例検討</p> <p>7. 自立支援とリハビリテーション</p> <p>8. さまざまなリハビリテーション</p> <p>9. リハビリテーションにおける介護福祉士の役割</p> <p>10. 自立支援と介護予防 介護予防とは</p> <p>11. これからの介護予防サービス 地域包括ケアシステム</p> <p>12. 高齢者の身体特性と介護予防 フレイルとサルコペニア</p> <p>13. 介護予防の実際 基本チェックリストの捉え方</p> <p>14. 介護予防における介護福祉士の役割</p> <p>15. 尊厳が保持された介護とは グループワーク</p>			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新介護福祉士養成講座 3 『介護の基本Ⅰ』(中央法規)		後期試験、出席、授業態度%	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅳ	授業の種類 講義	授業担当者 藤岡 恵子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2学年 通年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護を必要とする人の生活を支援するためには、安全の確保が必要である。そのために基礎的な知識や事故への対応、介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解する。また、他職種協働の介護を実践し、自身のこころと身体の健康管理と労働環境の管理の必要性が、介護を必要とする人の暮らしの継続をする上で必要であると理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>介護における安全の確保のためにリスクマネジメントが必要であり、リスクを回避する方法等を、事例を示しながら解説する。また、他職種協働を実践するために、他職種の機能や役割について解説する。介護を実践するための健康管理や労働環境の管理の必要性を解説する。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得する。介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得する。チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得する。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉士の責務と安全の確保 2 利用者の尊厳の保持と安全な暮らしの提供 3 リスクマネジメントとは何か① 4 リスクマネジメントとは何か② 5 事故防止のための対策（演習 3-1） 6 介護福祉士に必要な感染に関する知識 7 安全な薬物療養を支える視点（演習 3-2） 8 他職種連携・協働とは 9 他職種連携・協働の必要性 10 他職種連携・協働の効果（演習 4-1） 11 介護実践の場での他職種連携・協働 12 保健・医療・福祉職の役割と機能 13 健康管理の意義と目的、こころの健康管理 14 身体の健康管理、労働環境の整備 15 まとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>・「最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ」 中央法規出版</p> <p>・授業担当者作成資料</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>出席・授業態度・定期試験</p>	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） リハビリテーション論	授業の種類 講義	授業担当者 井上真太郎	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「リハビリテーション」への理解と介護福祉士の役割を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「リハビリテーション」の理解と、実際に行われているリハビリテーションを学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護福祉士として、リハビリテーションの一端が担える。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理解（理念と展開） 2. リハビリテーションに関する諸制度と日本の動向 3. リハビリテーションの種類と各専門職 4. リハビリテーションチームアプローチについて 5. 社会資源① 6. 社会資源② 7. 社会資源③ 8. 住宅改修について 9. リハビリテーション介護の実際 10. 障害別リハビリテーションの実際① 11. 障害別リハビリテーションの実際② 12. 障害別リハビリテーションの実際③ 13. 地域リハビリテーション 14. 終末期リハビリテーション 15. まとめと試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新介護福祉士全書別巻2 「リハビリテーション論」 メヂカルフレンド社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席・態度・試験</p>	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 家政学概論		授業の種類 演習		授業担当者 田中貴美子	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15時間（1単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>施設のみならず在宅介護においても個人の人権を尊重した被服の支援が提供できる知識を学習する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>被服の役割を学び、被服生活を中心とした利用者の支援について</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>高齢者や障害者等が日常生活の中での被服生活の意義を理解し、支援することができる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 被服生活の基礎知識 2. 被服の管理（洗濯・保管・アイロンがけ） 3. 被服の素材 4. 被服と皮膚の衛生保持 5. 高齢者の身体機能低下 6. 高齢者の被服における工夫 7. 高齢者・障害者の被服 8. まとめ・試験 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
参考文献適宜紹介 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I			出席・授業態度・試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術総論		授業の種類 演習	授業担当者 松田典子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護を必要とする人や援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習をする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>基本的なコミュニケーション技術の方法と内容について演習を取り入れながら講義する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>基本的なコミュニケーション技法（傾聴技能等）を理解し、習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護におけるコミュニケーションとは（意義と目的） 2. コミュニケーションの基本 3. 介護におけるコミュニケーションの役割① 4. 介護におけるコミュニケーションの役割② 5. 介護における生活支援とコミュニケーション① 6. 介護における生活支援とコミュニケーション② 7. 話を聴く技法 8. 利用者の感情表現を察する技法 9. 利用者の納得と同意を得る方法 10. 質問の技法 11. 相談・助言・指導の技法 12. 利用者の意欲を引き出す技法 13. 利用者と家族の意向を調整する技法 14. 複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法 15. まとめ 			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
<ul style="list-style-type: none"> ・「新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術」中央法規 		<ul style="list-style-type: none"> ・出席・授業態度・提出物 ・筆記試験 	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術各論 I		授業の種類 演習	授業担当者 松田典子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習をする</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>コミュニケーション技術の方法と内容について事例を取り入れながら講義する</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション技術の方法と内容について理解させる 2. 傾聴技能を習得させる 3. 具体的な事例や援助場面を想定したロールプレイを通じ、実践に向けた応用力を養う 4. 自己の対人援助観を養う 5. 自己覚知の促進 6. 介護福祉士の専門性を理解させ、また自覚をまたせ、他の専門職種とのチームワークの大切さを理解させる 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚機能・運動機能が低下している人とのコミュニケーション 2. 感覚機能・運動機能が低下している人とのコミュニケーション 3. 認知・知覚機能が低下している人のコミュニケーション 4. 認知・知覚機能が低下している人のコミュニケーション <p>介護におけるチームのコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 介護における記録の意義、目的・記録の種類 6. 記録の方法、留意点 7. 記録の管理（介護記録における個人情報保護） 8. 介護記録の共有化 9. 情報通信技術（IT）を活用した記録の意義、活用の留意点 10. 記録の活用 11. 報告の意義、目的 12. 報告・連絡・相談の方法、留意事項 13. 会議の意義、目的、種類 14. 会議の方法、留意点 15. まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] ・「新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術」中央法規		[単位認定の方法及び基準] 試験・レポート・出席・授業態度	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術各論Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 梶邦江	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15時間（1単位）	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修		
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習をする					
[授業全体の内容の概要] 聴覚障害について学び、聴覚障害者とのコミュニケーション技術の方法と内容について					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 聴覚障害者のコミュニケーション技術の方法と内容について理解させる 2. 簡単な手話表現と読み取りができるようになる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 聴覚障害とは、聞こえの仕組みと手話の成り立ち 2. 指文字・数・名前の表現方法と読み取り 3. 人物・時・名前の表現方法と読み取り 4. 住所の表現方法と読み取り・聴覚障害者とのコミュニケーション 5. 仕事・趣味・問いかげや生活に関する表現と読み取り 6. 病気・介護・医療・感情・公共機関や身近なものの表現と読み取り 7. 副詞的・助動詞的表現と読み取り 8. まとめ・試験					
[使用テキスト・参考文献] 厚生省手話奉仕員養成講座入門、基礎課程対応 「はじめて出会う手話」 一般財団法人全日本ろうあ連盟			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・試験（理論、実技）		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅰ①	授業の種類 演習	授業担当者 長本 幸子 ・ 藤岡 恵子	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 120時間（4単位）	配当学年・時期 1学年・通年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>生活を支えるうえでの介護とは何かを考え、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。応急手当や災害時の対応を学ぶことにより、より実践に沿った介護方法を習得する学習とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>高齢者や障害のある人の特性を学び、ボディメカニクスを活用することにより双方が負担にならない介護とは何かを考えることができるようになる。災害時には対象者の目線に立った介護が実践できるような知識・技術を学ぶ。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。さまざまな環境下にある対象者を理解し、思いに沿った介護が実践できる知識・技術を身に着ける。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 1. オリエンテーション 生活支援技術の基本的な考え方</p> <p>2. ボディメカニクスを活用した介護とは</p> <p>3. 環境を整える 二人シーツ交換① ベッドの名称</p> <p>4. 二人シーツ交換② 褥瘡の好発部位</p> <p>5. 自立に向けた移乗・移動の介護① 主な姿勢と起き上がりの介助</p> <p>6. " ② 仰臥位から端坐位 麻痺を考える</p> <p>7. " ③ さまざまな福祉用具（杖・車いす）</p> <p>8. " ④ ベッド～車いすへ移乗・移動</p> <p>9. " ⑤ 杖歩行 二動作歩行と階段昇降</p> <p>10. " ⑥ 視覚障害のある方の介助</p> <p>11. " ⑦ 車いす・白杖をつかって外出体験</p> <p>12. 応急手当の実際 観察と対処方法</p> <p>13. 災害時における生活支援 災害時の多職種協働</p> <p>14. 二人シーツ交換 試験①</p> <p>15. " 試験② 解説</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座第6巻・第7巻 『生活支援技術Ⅰ・Ⅱ』（中央法規）		〔単位認定の方法及び基準〕 実技試験 筆記試験 ノート提出 出席 授業態度	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅰ②	授業の種類 演習	授業担当者 長本 幸子・藤岡 恵子	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 120時間（4単位）	配当学年・時期 1学年・通年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>生活を支えるうえでの介護とは何かを考え、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。応急手当や災害時の対応を学ぶことにより、より実践に沿った介護方法を習得する学習とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>高齢者や障害のある人の特性を学び、ボディメカニクスを活用することにより双方が負担にならない介護とは何かを考えることができるようになる。災害時には対象者の目線に立った介護が実践できるような知識・技術を学ぶ。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また実践の根拠について、説明できる能力が身につくようにする。さまざまな環境下にある対象者を理解し、思いに沿った介護が実践できる知識・技術を身に着ける。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 16. 自立に向けた身支度の介護① 整容の介助方法（洗顔・口腔ケア）</p> <p>17. " ② 衣類の脱着の介助方法（前開き・丸首・ズボン）</p> <p>18. 自立に向けた入浴・清拭の介護① 入浴の介助方法</p> <p>19. " ② 清拭の介助方法</p> <p>20. 自立に向けた排泄の介護① ポータブルトイレの介助方法</p> <p>21. " ② " さまざまな尿器</p> <p>22. " ③ オムツ交換（布）</p> <p>23. " ④ オムツ交換 さまざまなオムツ</p> <p>24. 事例問題検討① ポータブルトイレの介助</p> <p>25. " " (ノートまとめ)</p> <p>26. 事例問題検討② 視覚障害のある方の介助</p> <p> " " (ノートまとめ)</p> <p>27. 事例問題試験① ポータブルトイレの介助</p> <p>28. " ① " 解説</p> <p>29. " ② 視覚障害のある方の介助</p> <p>30. " ② ポータブルトイレの介助 解説</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座第6巻・第7巻 『生活支援技術Ⅰ・Ⅱ』（中央法規）		〔単位認定の方法及び基準〕 実技試験 40% 筆記試験 30% ノート提出 10% 出席 10% 授業態度 10%	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者	
生活支援技術Ⅱ①	演習	長本 幸子・藤岡 恵子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
30回	120時間(4単位)	2学年・通年	必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態にあってもその人の意思を尊重し、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>様々な状態の方に応じた介護方法を知り、より実践に即した介護支援ができる知識・技術を学ぶ。人生の最終段階における介護とは何かを考え、多職種連携・協働の意義が理解できる。福祉用具の活用方法を理解し、安全で快適な環境とは何かを学習する。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>対象者の状態に応じた介護が実践でき、根拠が説明できるようになる。</p> <p>人生の最終段階における介護の役割を学び、多職種協働の意義を理解する時代に即した福祉用具を学習し、安全で安楽な介護が実践できるようになる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 1. 対象者の状態に応じた身支度① 衣類脱着</p> <p>2. 〃 ② 整容 口腔ケア</p> <p>3. 対象者の状態に応じた食事① 食卓で行う食事 嚥下体操</p> <p>4. 〃 ② ベッド上で行う食事 安楽な姿勢</p> <p>5. 休息・睡眠の介護① 快適な環境づくり</p> <p>6. 〃 ② 一人シーツ交換①</p> <p>7. 〃 ③ 一人シーツ交換②</p> <p>8. 〃 ④ 一人シーツ交換③</p> <p>9. 対象者の状態に応じた清潔保持① 清拭 部分浴</p> <p>10. 〃 ② 入浴体験（特浴・個浴）</p> <p>11. 対象者の状態に応じた排泄① ポータブルトイレ</p> <p>12. 〃 ② オムツ交換</p> <p>13. 一人シーツ交換試験①</p> <p>14. 一人シーツ交換試験②</p> <p>15. 一人シーツ交換試験③ 解説</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
最新介護福祉士養成講座第7巻 『生活支援技術Ⅱ』（中央法規）		実技試験 40% 筆記試験 30% ノート提出 10% 出席 10% 授業態度 10%	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ②	授業の種類 演習	授業担当者 長本 幸子・藤岡 恵子	
授業の回数 30回	時間数(単位数) 120時間（4単位）	配当学年・時期 2学年・通年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態にあってもその人の意思を尊重し、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>様々な状態の方に応じた介護方法を知り、より実践に即した介護支援ができる知識・技術を学ぶ。人生の最終段階における介護とは何かを考え、多職種連携・協働の意義が理解できる。福祉用具の活用方法を理解し、安全で快適な環境とは何かを学習する。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>対象者の状態に応じた介護が実践でき、根拠が説明できるようになる。</p> <p>人生の最終段階における介護の役割を学び、多職種協働の意義を理解する時代に即した福祉用具を学習し、安全で安楽な介護が実践できるようになる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 16. 人生の最終段階における介護① 意義と介護の役割</p> <p>17. " ② 変化と対応方法 グリーフケアとは</p> <p>18. 福祉用具の意義と活用</p> <p>19. 事例問題検討① 車いすへの移乗・移動①</p> <p>20. " " ② (ノートまとめ)</p> <p>21. 事例問題検討② オムツ交換①</p> <p>22. " " ② (ノートまとめ)</p> <p>23. 事例問題検討③ 認知症の方の対応① 高次脳機能障害</p> <p>24. " " ② (ノートまとめ)</p> <p>25. 事例問題検討④ 認知症の方の対応③ アルツハイマー型認知症</p> <p>26. " " ④ (のーとまとめ)</p> <p>27. 事例問題試験①</p> <p>28. 事例問題試験②</p> <p>29. 事例問題試験③</p> <p>30. 解説・ふりかえり</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座第7巻 『生活支援技術Ⅱ』（中央法規）		〔単位認定の方法及び基準〕 実技試験 40% 筆記試験 30% ノート提出 10% 出席 10% 授業態度 10%	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 家政学Ⅰ（栄養・調理）		授業の種類 演習		授業担当者 芳賀絵美子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点からどのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めて、介護の基礎となる家庭生活に関する知識・技術を習得させ、個人に応じた介護支援ができる能力を養う</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自立に向けた食事の介護について 2. 自立に向けた家事の介護について 3. その他 <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>家庭経営に関する様々な技能を実習を通して習得し、かつ高齢者や障害者の家庭生活支援能力を養う</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭生活の経営と管理について・食事の意義と目的 2. 栄養について 3. 調理の基本 4. 食品の衛生について 5. 家事（調理）支援における介助の技法 6. 献立作成（高齢者） 7. 献立作成（各種疾病別） 8. 調理実習（調理操作の基礎技術） 9. 調理実習（高齢者） 10. 調理実習（高齢者） 11. 調理実習（高齢者） 12. 調理実習（障害者） 13. 調理実習（障害者） 14. 保存食・加工食品の取り扱いについて 15. 調理実習（保存食品・加工食品） 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
参考文献適時紹介 介護福祉養成講座 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版			出席・授業態度・提出物・試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 家政学Ⅱ（被服・住居）	授業の種類 演習	授業担当者 関谷公子・秋本瞭	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年・ 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>住居の役割や機能、住居の管理など住生活の基本的事項を理解し、高齢者や障害者に適応した住生活・住環境について学習する。介護の基礎となる家庭生活に関する知識・技術を習得させる</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストや資料を使って住生活の基本事項を踏まえ、学生一人一人の自宅を例に高齢者や障害者に適した住環境に改善する。 2. 介護の立場から装いのリフォームやアドバイスができるよう、エプロン作製を通し基礎ぬいを学ぶ <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>バリアフリーの住環境の必要性を認識し、高齢者・障害者における安心で安全な住環境について創意工夫し、計画提案する。</p> <p>日常生活に必要な技能を実習を通して習得し、かつ高齢者や障害者の家庭生活支援能力を養う</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住居の役割と機能 2. 地域生活と住居 3. 製図の基本、平面図・配置図 4. 生活行動と生活空間 5. 快適な室内環境 6. 高齢者・障害者の住居と住まい方 7. バリアフリー住居、バリアフリー住環境 8. 高齢者・障害者に適した住宅改善 9. 「家事」という生活の支援について 10. エプロン実習、からだの変化と装いを考える 11. 手縫い基礎① 運しん・玉止め・ボタンつけ 12. 糸の太さと色彩について 13. アイロンについて（ポケットつけ） 14. 手縫い基礎② まつりとミシンについて 15. エプロン実習、ミシンについて ・ まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座委員会「新・介護福祉士養成講座6、生活支援技術Ⅰ」		[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・提出物・試験	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 介護過程の基礎Ⅰ	授業の種類 講義	授業担当 藤岡 恵子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 前期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>他科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の展開に必要な基礎知識および介護計画立案と適切なサービスの提供の重要性を理解し、個別ケアを、具体的に実現する方法である介護過程の展開ができる基礎能力を養う。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>介護過程を行う意義・目的を解説し、情報の収集・関連づけ・分析・統合を行うことが、利用者の課題を明確化する上での思考の展開が、介護過程であることを講義および演習を通して概説する。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>介護過程の展開は、介護福祉士として専門性のある介護を提供するために重要であると自覚できる。介護過程について、その意義や目的、アセスメントにおける情報収集ができる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（本授業の内容と到達目標の説明） 2 介護過程とは 3 介護過程の意義・目的 4 介護過程とICF 5 生活支援における介護過程の意義 6 介護過程と事例検討 7 アセスメントの思考方法 8 アセスメントの視点の提示 9 介護過程の展開①（アセスメント：情報） 10 介護過程の展開②（アセスメント：情報の収集） 11 介護過程の展開③（アセスメント：ICFモデルの活用①） 12 介護過程の展開④（アセスメント：ICFモデルの活用②） 13 介護過程の展開⑤（アセスメント：解釈・関連づけ・統合化①） 14 介護過程の展開⑥（アセスメント：解釈・関連づけ・統合化②） 15 まとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>・「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 出席・授業態度・定期試験</p>	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 介護過程の基礎Ⅱ	授業の種類 講義	授業担当者 藤岡 恵子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1学年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護過程は、個別ケアを具体的に実現する方法である。アセスメントでの課題を利用者本位の視点で明確に捉えられ、立案することで必要な介護サービスの提供ができ、チームアプローチとして介護過程をてんかひすることの意義や方法を理解できる能力を養う。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>介護過程の基礎Ⅰで理解したアセスメントにより、課題を明確化し、立案、実施、評価する上での思考の展開が、介護過程であることを講義および演習を通して概説する。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>介護過程の展開は、思考過程であり、利用者本位の介護過程の展開ができる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護過程の基礎Ⅰでの復習：アセスメント 2 介護計画の概要 3 目標の設定 4 具体的な支援内容・支援方法の決定① 5 具体的な支援内容・支援方法の決定② 6 介護の実施及び留意点 7 実施の記録（目的） 8 実施の記録（事例を通しての記録） 9 評価の意義と目的 10 評価の内容と方法 11 介護過程の展開（事例①） 12 介護過程の展開（事例①） 13 介護過程の展開（事例②） 14 介護過程の展開（事例②） 15 まとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>・「最新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 出席・授業態度・定期試験</p>	

シラバス (授業概要)

授業のタイトル (科目名)	授業の種類	授業担当者																															
介護過程事例演習	講義	藤岡 恵子																															
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択																														
30回	60時間(2単位)	2学年 通年	必修																														
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護過程の展開に必要な基礎知識および介護計画立案と適切なサービスの提供が事例を通し、根拠に基づく展開できる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>事例からの介護過程の展開を講義および演習を通して解説し、事例の課題の明確化及び立案を各自発表する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>様々な事例を通し、利用者の生活課題を利用者の視点で明確化できる。また具体的な支援方法について、介護福祉士として専門性のある介護を提供し、多職種協働の活用のある立案ができる。</p>																																	
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table border="0"> <tr> <td>1 本授業の内容と到達目標の説明</td> <td>1 6 事例④ (在宅サービス)</td> </tr> <tr> <td>2 事例① (老健での暮らし)</td> <td>1 7 事例④ (在宅サービス)</td> </tr> <tr> <td>3 事例① (老健での暮らし)</td> <td>1 8 事例⑤ (特養での暮らし)</td> </tr> <tr> <td>4 事例① (老健での暮らし)</td> <td>1 9 事例⑤ (特養での暮らし)</td> </tr> <tr> <td>5 事例① (老健での暮らし)</td> <td>2 0 事例⑤ (特養での暮らし)</td> </tr> <tr> <td>6 事例② (グループホームでの暮らし)</td> <td>2 1 事例⑤ (特養での暮らし)</td> </tr> <tr> <td>7 事例② (グループホームでの暮らし)</td> <td>2 2 事例⑥ (特養での暮らし)</td> </tr> <tr> <td>8 事例② (グループホームでの暮らし)</td> <td>2 3 事例⑥ (特養での暮らし)</td> </tr> <tr> <td>9 事例② (グループホームでの暮らし)</td> <td>2 4 事例⑥ (特養での暮らし)</td> </tr> <tr> <td>1 0 事例③ (在宅サービス)</td> <td>2 5 事例⑥ (特養での暮らし)</td> </tr> <tr> <td>1 1 事例③ (在宅サービス)</td> <td>2 6 事例⑦ (実習Ⅱ)</td> </tr> <tr> <td>1 2 事例③ (在宅サービス)</td> <td>2 7 事例⑦ (実習Ⅱ)</td> </tr> <tr> <td>1 3 事例③ (在宅サービス)</td> <td>2 8 事例⑦ (実習Ⅱ)</td> </tr> <tr> <td>1 4 事例④ (在宅サービス)</td> <td>2 9 事例⑦ (実習Ⅱ)</td> </tr> <tr> <td>1 5 事例④ (在宅サービス)</td> <td>3 0 事例⑦ (実習Ⅱ)</td> </tr> </table>				1 本授業の内容と到達目標の説明	1 6 事例④ (在宅サービス)	2 事例① (老健での暮らし)	1 7 事例④ (在宅サービス)	3 事例① (老健での暮らし)	1 8 事例⑤ (特養での暮らし)	4 事例① (老健での暮らし)	1 9 事例⑤ (特養での暮らし)	5 事例① (老健での暮らし)	2 0 事例⑤ (特養での暮らし)	6 事例② (グループホームでの暮らし)	2 1 事例⑤ (特養での暮らし)	7 事例② (グループホームでの暮らし)	2 2 事例⑥ (特養での暮らし)	8 事例② (グループホームでの暮らし)	2 3 事例⑥ (特養での暮らし)	9 事例② (グループホームでの暮らし)	2 4 事例⑥ (特養での暮らし)	1 0 事例③ (在宅サービス)	2 5 事例⑥ (特養での暮らし)	1 1 事例③ (在宅サービス)	2 6 事例⑦ (実習Ⅱ)	1 2 事例③ (在宅サービス)	2 7 事例⑦ (実習Ⅱ)	1 3 事例③ (在宅サービス)	2 8 事例⑦ (実習Ⅱ)	1 4 事例④ (在宅サービス)	2 9 事例⑦ (実習Ⅱ)	1 5 事例④ (在宅サービス)	3 0 事例⑦ (実習Ⅱ)
1 本授業の内容と到達目標の説明	1 6 事例④ (在宅サービス)																																
2 事例① (老健での暮らし)	1 7 事例④ (在宅サービス)																																
3 事例① (老健での暮らし)	1 8 事例⑤ (特養での暮らし)																																
4 事例① (老健での暮らし)	1 9 事例⑤ (特養での暮らし)																																
5 事例① (老健での暮らし)	2 0 事例⑤ (特養での暮らし)																																
6 事例② (グループホームでの暮らし)	2 1 事例⑤ (特養での暮らし)																																
7 事例② (グループホームでの暮らし)	2 2 事例⑥ (特養での暮らし)																																
8 事例② (グループホームでの暮らし)	2 3 事例⑥ (特養での暮らし)																																
9 事例② (グループホームでの暮らし)	2 4 事例⑥ (特養での暮らし)																																
1 0 事例③ (在宅サービス)	2 5 事例⑥ (特養での暮らし)																																
1 1 事例③ (在宅サービス)	2 6 事例⑦ (実習Ⅱ)																																
1 2 事例③ (在宅サービス)	2 7 事例⑦ (実習Ⅱ)																																
1 3 事例③ (在宅サービス)	2 8 事例⑦ (実習Ⅱ)																																
1 4 事例④ (在宅サービス)	2 9 事例⑦ (実習Ⅱ)																																
1 5 事例④ (在宅サービス)	3 0 事例⑦ (実習Ⅱ)																																
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>・最新・介護福祉士養成講座 9 「介護過程」 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席・授業態度 成果物・確認試験</p>																															

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） ケアマネジメント論		授業の種類 講義		授業担当者 藤岡恵子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>利用者の理解を図りながら、必要な情報収集を行い、分析・解釈に基づいて介護内容を計画し、実施・評価できるように講義・演習を通して学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>事例演習を踏まえて個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程におけるアセスメントの概要 2. 情報収集 3. 情報の分析・統合によるニーズの明確化と課題の抽出 4. 課題の優先順位 5. 介護計画の意義 6. 目標の設定 7. 援助方法の立案 8. 介護計画に記入すべき要素 9. 介護計画の書き方 10. 介護過程における実施の意義と記録の方法 11. 評価の意義と介護過程における位置づけ 12. 評価作業の手順と評価記録の方法 13. 介護過程に必要な記録類 14. 評価後の介護計画の修正 15. まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 9 介護過程 中央法規			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・提出物・試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅰ		授業の種類 講義・ 演習		授業担当者 長本幸子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年・前期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>利用者とのコミュニケーションを図りながら利用者の生活状況や生活リズム及びニーズの把握に努め、実習施設の概要・基礎的な日常援助を体験し、理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付け、また体験実習を行うことで、利用者や施設の概要を掴むことが出来るようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各実習の意義と重要性について理解できる。 ・学内で学んだ知識・技術・態度を実習の中で活用できる。 ・実習を通して施設の概要と利用者について理解が深められる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護実習の意義と目的 2. 実習施設の理解（施設の特徴） 3. 利用者の特徴の理解 4. 施設職員の役割・多職種間の連携 5. 実習概要の説明（施設実習の目的・目標） 6. 見学実習先と交通手段の確認（実習先ごと） 7. 見学実習報告とグループディスカッション1 8. 見学実習の振り返り・反省会・発表1 9. 学実習報告とグループディスカッション2 10. 見学実習の振り返り・反省会・発表2 11. 第一段階実習の意義と目的 12. 実習前オリエンテーションについて（マナー・心構え・注意事項） 13. 実習に必要な記録用紙の準備と記名、ファイリング 14. だし一段階実習の到達目標と個人目標の設定 15. まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 中央法規、			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・提出物・試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 講義・演習		授業担当者 長本 幸子
授業の回数 30 回	時間数(単位数) 60時間（ 2単位）	配当学年・時期 1年・ 後期	必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護実習の介護技術の確認、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力について、個別の学習到達状況に応学習をする。				
[授業全体の内容の概要] 個別の必要案情報の収集・分析・統合から生活課題を抽出し、立案、実施、評価、修正に到る一連の介護過程を演習を通して習得する。				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・各実習の意義の重要性について理解できる。 ・実習を通して学内で学んだ知識・技術・態度を具体的に理解できる。 ・習得した諸学習を応用し、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等実践的対応能力を習得できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 実習記録の書き方（記録法） 2. 個人プロフィールの作成・個人面談 3. 実習先と交通手段の確認（実習先ごと） 4. レクリエーション企画書の作成 5. 介護技術の確認 6. 実習での問題点についてディスカッション（反省用紙記入） 7. 実習施設の理解（施設の特徴・役割） 8. 利用者の特徴の理解 （病気や症状の特徴と理解） 9. 認知症の理解 10. 認知症のある人の支援体制 11. コミュニケーション技法（事例を基に演習） 12. 実習記録について（記録法） 13. アセスメントの方法と記録方法 14. 情報の収集・統合・関連付け（時例演習） 15. ニーズの抽出方法 16. ニーズの優先順位 17. ニーズに挙げた根拠と対応した目標の設定 18. 介護計画の立て方				

19. 介護計画の立案（演習）
20. 自己評価・個人の振り返り
21. 介護計画の実際
22. 計画の追加・修正・変更と再アセスメント
23. 実習の振り返り・困難事例
24. 介護計画の立案（演習）1
25. 介護計画の立案（演習）2
26. 立案の発表（グループ演習）
27. 介護技術の確認
28. 実施の際の留意点
29. 評価の着眼点と記録の方法
30. まとめ

[使用テキスト・参考文献]

新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護
実習 編集介護福祉士養成講座編集委員会 中央
法規出版

[単位認定の方法及び基準]

出席・態度・提出物・筆記試験

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅲ		授業の種類 講義・演習		授業担当者 藤岡 恵子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（ 1単位）	配当学年・時期 2年・ 前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護実習の介護技術の確認、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力について、実習後の事例研究等について総合的な学習をする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>個別の必要案情報の収集・分析・統合から生活課題を抽出し、立案、実施、評価、修正に到る一連の介護過程を実習の中で実践的に学習する。またその過程を研究し記録としてまとめ、発表する機会を設ける</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各実習の意義の重要性について理解できる。 ・実習を通して学内で学んだ知識・技術・態度を具体的に理解できる。 ・習得した諸学習を応用し、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等実践的対応能力を習得できる。 ・導入から結論まで根拠に基づいた事例研究を行い、発表することができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人プロフィール作成・個人面談 2. レクリエーション企画書の作成 3. 実習での問題点についてディスカッション 4. 自己評価・個人の振り返り（反省用紙記入） 5. 実習報告とグループディスカッション 6. 困難事例の検討 7. 演習問題 8. 受持ち事例のまとめ 9. 研究論文作成 10. 研究論文作成 11. 研究論文作成 12. 事例練習 13. 研究発表会 14. 施設と在宅の違い、訪問介護の役割 15. まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・提出物・筆記試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習 IV	授業の種類 講義・演習	授業担当者 藤岡 恵子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 2学年 後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護過程の展開を、介護実習Ⅱ（第3段階施設実習）を通して行い、介護過程の展開ができる。訪問介護実習を体験することで、居宅介護における利用者の生活支援を理解できる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>介護実習Ⅱ（第3段階施設実習）を通し、介護過程の展開が生活を支援する上で重要であること、また施設での生活だけではなく、訪問介護実習（実習Ⅰ）を体験することで介護観を形成することの意義を解説する。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>他科目で学んだ知識、技術をふまえ、効果的に実習に活かし介護過程の展開ができる。実習での経験を振り返り、自己学習で深めていく大切さ、介護観の形成ができる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習後の振り返り① 2 実習後の振り返り② 3 実習後の振り返り③ 4 実習後の振り返り④ 5 実習後の振り返り⑤ 6 実習Ⅰ（訪問介護）の意義 7 実習Ⅰ（訪問介護）の実習先の特徴 8 実習後の振り返り① 9 実習後の振り返り② 10 実習後の振り返り③ 11 実習Ⅰ・Ⅱを通しての研究発表 12 実習Ⅰ・Ⅱを通しての研究発表 13 実習Ⅰ・Ⅱを通しての研究発表 14 実習Ⅰ・Ⅱを通しての研究発表 15 まとめ 			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>・「最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」 中央法規出版</p> <p>・授業担当者作成資料</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席・授業態度・定期試験</p>	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解 I	授業の種類 講義	授業担当者 長本 幸子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1学年・後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、身体的・心理的・社会的変化が生活にどのような影響を及ぼすかを理解し、各ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>人間は生涯発達する生物であることを理解し、各ライフサイクル期の特徴や変化が生活にどのような影響を与えるかを学習する。また、老化と加齢について理解を深め、高齢者の生活がより良いものになるように考えてゆく力を養う。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>ライフサイクル各期の特徴と変化を学び、身体的・心理的・社会的にどのような影響を与えているのかが理解できる。老化の特徴や老化に伴う生活課題を学ぶことにより、健康長寿に向けての生活支援とは何かを理解することができる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 1. 成長・発達 生涯発達とは</p> <p>2. 成長・発達の原則</p> <p>3. スキャモンの発達曲線と臨界期</p> <p>4. 遺伝が及ぼす影響と環境がつくる影響</p> <p>5. さまざまな発達理論</p> <p>6. 各発達段階の概要</p> <p>7. 身体的機能の成長と発達</p> <p>8. 発達段階別にみた特徴的な疾病や障害</p> <p>9. 心理的機能の発達 ピアジェの認知発達理論</p> <p>10. 社会的機能の発達 価値観の変化と喪失体験</p> <p>11. さまざまな老年期の定義 WHOと老人福祉法</p> <p>12. 老化の特徴 加齢と老化の違い</p> <p>13. 老化に伴う変化と課題 生活へどのような影響を及ぼすのか</p> <p>14. 日本の高齢化と社会生活を営む上での課題</p> <p>15. 健康長寿にむけて サクセルフルエイジングを目指して</p>			
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>最新介護福祉士養成講座第12巻 『発達と老化の理解』（中央法規）</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>後期試験 出席 授業態度</p>	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 講義	授業担当者 盛重美恵子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1学年・後期	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響について理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>老化に伴う機能低下が日常生活に及ぼす影響や高齢者に多い疾病について理解し、生活支援技術の根拠となるようにする。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援技術の根拠となる知識を習得することが出来る。 ・人生のあらゆる段階に、特に老年期にある人を広い視野で理解し、尊厳の保持や自立支援を踏まえた介護実践につなげていく。 			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 1. 老化に伴う身体的な変化と生活への影響 2. 老化に伴う心理的な変化と生活への影響 3. 老化に伴う社会的な変化と生活への影響 4. 健康長寿に向けての健康 5. 高齢者の症状・疾患の特徴 6. 復習、中間評価 7. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点① 8. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点② 9. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③ 10. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④ 11. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤ 12. 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥ 13. 保険医療との連携 14. 試験 15. 振り返り</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕 最新介護福祉士養成講座第12巻 『発達と老化の理解』（中央法規）		〔単位認定の方法及び基準〕 後期試験 出席 授業態度	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者	
認知症の理解Ⅰ	講義	盛重美恵子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2単位)	1学年・後期	必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>認知症の本質や認知症の人の心理状態、認知症特有の症状やケア、認知症を取り巻く社会環境などを正しく理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を学習する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>認知症の本質を理解し、適切なケアが行える。また、原因執権を知ることが介護負担の軽減につながることを理解する。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症への理解を深め、そこから生じる日常生活への影響が理解できる ・ 認知症のある人へのケアを学び、実習に活かすことができる。 			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 1. DVD干渉、認知症のイメージ</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 認知症とは何か 3. 脳の仕組み 4. 認知症の人の心理 5. 認知症の症状・診断・治療・予防① 6. 認知症の症状・診断・治療・予防② 7. 認知症の症状・診断・治療・予防③ 8. 認知症の症状・診断・治療・予防④ 9. 認知症の症状・診断・治療・予防⑤ 10. 復習、中間評価 11. 認知症の人の現在とこれから 12. 認知症ケアの理念と視点 13. 「認知症ケアの理念」、グループ演習 14. 試験 15. 振り返り 			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
最新介護福祉士養成講座第12巻 「認知症の理解」 (中央法規)		後期試験 出席 授業態度	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者	
認知症の理解Ⅱ	講義	長本 幸子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間(2単位)	2年生・前期	必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>認知症の人の生活及び家族や社会とのかかわりへの影響を理解し、その特性を踏まえたアセスメント方法を学ぶことにより、本人が中心となるケアとは何かを理解することができる。また、本人や家族、地域とのかかわり方を学び、多職種協働・協働による支援方法とは何かを学習し、理解を深めることができる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>個々により特性の異なる認知症の人に対応できるよう、ケアの方法やさまざまなアセスメント法を理解する。また、制度やサポート体制を理解し、多職種連携・協働のあり方について学び、本人や家族により良い支援が提案できるような知識を学ぶ。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>認知症の人やその家族が抱える課題を理解し、その特性を踏まえたアセスメントや介助方法が理解できる。必要な制度やサポート体制、多職種連携・協働による支援について理解し、本人が主体となり地域で安心して生活できるような支援とは何かを考えられるようになる。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数 1. 認知症に伴う生活への影響</p> <p>2. パーソン・センタード・ケアとは 聞く・集める・見る</p> <p>3. 認知症の特性を踏まえたアセスメントツール</p> <p>4. 認知症の人へのさまざまなかかわり バリレーション・音楽療法・回想法</p> <p>5. 認知症の人へのケア 食事・排泄</p> <p>6. 認知症の人へのケア 入浴・清潔保持・睡眠</p> <p>7. 認知症の人へのケア 生きがいや活動 ところに寄り添う</p> <p>8. 認知症の人へのケア 環境への配慮とBPSD</p> <p>9. 認知症の人へのケア 人生の最終段階のケア</p> <p>10. 心地よい環境とは ICFの観点から</p> <p>11. 多職種協働と協働 認知症の人が安心して暮らせるためには</p> <p>12. さまざまな制度と地域におけるサポート体制</p> <p>13. 認知症の人を介護する家族の実態 若年性認知症とは</p> <p>14. 家族への支援 家族に寄り添う</p> <p>15. 地域に根ざした認知症介護を目指して</p>			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
最新介護福祉士養成講座 13 『認知症の理解』（中央法規）		前期試験 出席 授業態度	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 障害の理解 I		授業の種類 講義		授業担当者 久賀光	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・後期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害の概念や障害者福祉の基本理念を学ぶ。障害が及ぼす心理的影響や障害の受容、日常生活への影響を「生活支援技術」と関連付けて学ぶことができる</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>疑似体験などのより具体的なイメージを持って障害を理解できるような授業を展開する</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>基本理念としてのノーマライゼーションについて理解でき、障害の知識や症状、自立に向けて必要な介護を考えることができる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害のある人の心理 2. 障害者の法的定義 3. ノーマライゼーション 4. リハビリテーション（インクルージョン） 5. 自己決定の概念 6. ケアワークの中のエンパワーメント 7. 生活ニーズとアセスメント 8. 自立の概念 9. 家族への支援 10. 地域生活と支援 11. チームアプローチ 12. 地域におけるサポート 13. 行政、社協との連携 14. 社会資源のあり方 15. まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座「障害の理解」 中央法規			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・提出物・試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 盛重美恵子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年・ 通年	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害のある人の心理や身体機能を理解し、地域や家族を含めた障害のある人の生活支援について学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>それぞれの障害種別ごとの身体的・心理的側面をふまえた生活とそれぞれに応じた支援について学ぶ。介護現場において障害のある人の自立に向けた生活支援が「生活の理解」という基本的な知識であることを理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠に基づいた障害のある人の生活支援を学ぶことができる。 ・よりよい介護実践につなげていくことができる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害のある人の心理 2. 肢体不自由（運動機能障害） 3. 視覚・聴覚・言語障害 4. 重複障害 5. 内部障害① 6. 内部障害② 7. 内部障害③ 8. 復習、中間評価 9. 重症心身障害 10. 知的・精神障害 11. 高次脳機能障害 12. 発達障害 13. 難病 14. 試験 15. 振り返り 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座「障害の理解」、 中央法規			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・提出物・試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅠ		授業の種類 講義		授業担当者 松田典子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護技術の根拠となる心理的側面への配慮について理解する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間の欲求の基本的な理解や感情の思考等を学び、学生が利用者の状態をみて理解したうえで、生活支援が行えるように留意し授業を展開する</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>こころとからだは相互に影響し合い、意欲や行動などに影響を及ぼすことを学習する</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の欲求の基本的理解 2. 基本的欲求と社会的欲求 3. 自己概念について 4. 〃 5. こころのしくみの基礎 6. 思考のしくみ 7. 学習について 8. 記憶について 9. 感情のしくみ 10. 意欲・動機づけのしくみ 11. 適応のしくみ 12. 防衛機制について 13. 発達障害の理解 14. 睡眠のしくみ 15. まとめ 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座 14 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席・授業態度・提出物・筆記試験</p>		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 講義		授業担当者 落合雅子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>高齢者や障害者の健康レベルを維持向上させ、自立した日常生活の援助に向けて医学一般の知識が習得できる</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>高齢者に多い疾病とその症状の現れ方の特徴を学び実際に生活する場面の中で理解でき、環境等により個人差があることを学生が実感できるように留意し、授業を展開していく</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の基本的な構造や機能及びその病的状態について理解できる ・代表的な疾患について、その概要が理解できる ・保健医療に関する基礎知識が理解できる 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. からだのしくみの理解、生命の維持・向上のしくみについて 2. 人体の区分、解剖学用語、細胞と組織 3. 循環器系、呼吸器系について 4. 消化器系、代謝系、泌尿器系について 5. 神経系、皮膚系、筋・骨格系について、関節の可動域について 6. 血液・リンパ系・ホルモン系について 7. 特殊感覚系、生殖器、免疫系について 8. 悪性新生物 9. 生活習慣病（高血圧症・糖尿病・心疾患・腎疾患・動脈硬化など） 10. 感染症 11. 神経・精神疾患 12. 先天性疾患 13. 難病（特定疾病含む） 14. 障害の概要、その他疾病について 15. まとめ 					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 14 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・提出物・筆記試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅢ		授業の種類 講義		授業担当者 藤岡恵子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、生活支援技術の根拠となる知識の修得を図る</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>成長と発達の知識が各段階における利用者の自立に向けた生活支援技術の根拠となることに学生が気づくよう留意し授業を行う</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>高齢者の身体不調の訴え等に関して、生活支援技術と関連させて具体的な支援の根拠を学ぶことができる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身支度に関連したこころとからだのしくみ（身支度行為の生理的意味と基礎知識） 2. 機能低下・障害が及ぼす口腔の清潔への影響 3. 移動に関連したこころとからだのしくみ（移動行為の生理的意味と基礎知識） 4. 安全・安楽な稼動・姿勢・体位の保持のしくみ、良肢位、ボディメカニクスについて 5. 食事に関連したこころとからだのしくみ（食べることの生理的意味と基礎知識） 6. 誤嚥の予防と嚥下障害に気づく観察のポイント、脱水について、食事制限について 7. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（清潔保持の生理的意味） 8. 入浴が及ぼすからだへの負担、リラックス、爽快感を感じるしくみ 9. 排泄に関連したこころとからだのしくみ（排泄の生理的意味、便・尿の性状、量、回数） 10. 便秘・下痢に気づくためのポイント、排泄に関連する機能低下について、失禁について 11. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（睡眠の生理的意味、睡眠時間とリズムについて） 12. 睡眠機能の低下と原因について（睡眠障害） 13. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（生理的な死、法律的な死、臨床的な死） 14. 終末期から危篤、死亡時のからだの理解、死に対する恐怖、不安、死の受容までの段階 15. まとめ 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座14 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席・授業態度・提出物・筆記試験</p>		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア	授業の種類 講義	授業担当者 盛重 美恵子	
授業の回数 4 4回	時間数(単位数) 6 5（4単位）	配当学年・時期 通年	必修・選択 必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護福祉士の業務として喀痰吸引と経管栄養が新たに加えられた、2001（平成23）年の法律改正の主旨や内容、医療提供の基本的な考え方、リスクマネジメントを基盤とした安全な医療的ケアの実際を学習する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>医療的ケア実施の基礎として、「喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことができるようになった背景など、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識」・「喀痰吸引に関する基礎知識、実施手順とその留意点について」・「経管栄養に関する基礎知識、実施手順とその留意点について」・「喀痰吸引、経管栄養の準備から実施、報告・記録までの流れとその留意点および救急蘇生法の手順」について学ぶ。</p> <p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアに必要な基本的知識を理解することができる。 ・高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」「経管栄養」を安全かつ適切な実施手順について学ぶことができる。 			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的ケアとは 2. 医行為について 3. 喀痰吸引等制度① 4. 喀痰吸引等制度② 5. 医療的ケアと喀痰吸引等の背景① 6. 医療的ケアと喀痰吸引等の背景② 7. その他の制度 8. 【演習】医行為、介護福祉職等が喀痰吸引等を実施するための要件 9. 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 10. 救急蘇生① 11. 救急蘇生② 12. 【演習】・「喀痰吸引」「経管栄養」の安全な実施・リスクマネジメント・救急蘇生法の手順とポイント 13. 感染予防 14. 介護福祉職の感染予防 15. 療養環境の清潔、消毒法 			

16. 消毒と滅菌
17. 【演習】・手洗い・使い捨て手袋やマスク等の使用
18. 身体・精神の健康
19. 健康状態を知る項目（バイタルサインなど）
20. 【演習】健康状態を知る項目（バイタルサインなど）
21. 復習、中間評価
22. 振り返り
23. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論
24. 呼吸のしくみとはたらき・子どもの吸引と喀痰吸引に伴う感染予防
25. 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
26. 【演習】・喀痰吸引の必要物品と消毒法・利用者の状態観察の注意点・喀痰吸引前の利用者への説明・喀痰吸引の実施手順の流れ、ポイントと留意点
27. 復習、中間評価
28. 振り返り・DVD
29. 高齢者および障害児・者の経管栄養概論
30. 経管栄養で使用される栄養剤、経管栄養により生じる危険
31. 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説
32. 【演習】・経管栄養の必要物品・経管栄養の観察、ポイント・経管栄養の実施・経管栄養時に起こるトラブルと対応例・経管栄養実施の報告
33. 復習、中間評価
34. 振り返り・DVD
35. シュミレーターによる喀痰吸引演習
36. //
37. //
38. //
39. //
40. シュミレーターによる経管栄養の演習
41. //
42. //
43. //
44. //

<p>い [使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新介護福祉士養成講座</p> <p>医療的ケア 中央法規出版</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席、授業態度、提出物 試験</p>
---	--